

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.83

2006/10/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

下草の刈取りで明るくなった「四季の森」での観察する来訪者（06/09/24）

とも2～3年の周期で実施する必要があります。もちろん観察コースの整備という点でもコース沿いの草刈りは大事業です。今年は、湿原及びその周辺の下草刈りに加えて「四季の森」の全面的な下草刈りを実施しました。「四季の森」を対象にしたのは「2006 おうみ NPO 活動基金」の助成金の対象に「山門水源の森」での災害教育プログラムの開発を取上げたことと、ササの猛威から昆虫の食草や吸蜜植物を守るためです。附属効果として景観の維持があります。



草刈りで顔を出した岩塊（06/10/08）

「四季の森」での作業は一段落したとはいえ、「山門水源の森」はなにせ63.4haという広大な面積です。このような作業を各地で繰り返していく必要があります。この作業の繰り返しは、かつては生活の場として日々繰り返されていて、里山植物や里山の昆虫が維持されていたわけです。それを生活から切り離して実施しなければならないところに、今日の自然環境保全の困難さがあるわけです。

9月下旬から作業を開始し2週間ほどでほぼ全域の刈取りは終了し、後は刈り取ったササ等を整理する段階になりました。この作業中には「動物のミネラル補給所」・「オオゴムタケ」の新発地点・「カスミザクラ」の巨木密集地点「キツネ・野ネズミ」のねぐら等の新しい発見がありました。もちろん「土石流」の岩塊も各所で観察し易くなりました。これらの地点は10月の本会主催観察会で皆さんに披露したいと思っています。



姿を現わしたカスミザクラの巨樹（06/10/10）



ミネラル補給所 (06/09/30)



山地土壌を掘り起こした跡 (06/09/30)



今回見つかったオオゴムタケ (06/09/29) キノコアドバイザーの小寺会員とその仲間が 10 月 3 日に来訪され、キノコの撮影道具・方法・トリック等多くを教わりました。次回観察会の折その一端もご披露したいと考えています。これから 1 日 1 日森は彩りを増していきます。カメラ・ビデオ等を携えて是非ご家族でお訪ね下さい。

動物も私たち同様ミネラルの補給は欠かせません。「山門水源の森」では、これまでに 3 箇所でミネラル補給所がわかっていますが、既に放棄されたものもあります。今回「四季の森」で見つかったものは、連日利用しているようで真新しい足跡や掘り起こした跡が鮮明に観察できます。観察コースの「首つりの松」近辺に早くから「オオゴムタケ」の発生する場所が分かっていたが、今回「四季の森」で見つかったものは、2 箇所でどうやら「コハウチワカエデ」の朽木に発生しているようです。

10 月に入ってコースの全域は次々とキノコが大発生しており、その気になると 20 ~ 30 種はすぐに見つかります。



ハイカグラテンゲタケ (06/10/08)

【先進保全湿地「葦毛湿原」視察】

10 月 7 日懸案の豊橋市の「葦毛湿原」の視察を実施した。「葦毛湿原」は、都市近郊の中間湿原で「山門水源の森」の湿原とは、成立過程も異なるが早くから調査・保全活動が実施されている。滋賀県米原市山東町の「山室湿原」には、ここから移入された植物があるとされている。この湿原については、中西正氏が 1970 年代から調査・保全活動を実施され着々とその成果をあげておられる湿原である。早くからは是非この湿原の保全事業を見せていただき学びたいと思っていた場所である。今回会員の ML で呼びかけたところ 8 名の参加を得て実施しました。この視察で学んだことを明日から「山門水源の森」でも実践していきたいと感じました。



「葦毛湿原」中央部で (06/10/07)

記念スタンプとコサージュ

環境省の関連部局から「訪問時に記念になるスタンプ等は設置してありますか」という問い合せが 1 年ほど前にあり、いずれ作成せねばと思いつつなおざりになっていましたが、やっと会員の家族の協力でサギソウ・ユキバツバキ・ヒツジグサの 3 つのパターンができました。

また保全活動には様々な資金が必要ですが、既報の「菜」でカンパをお願いしたり、附属湿地で増殖し続けているヒツジグサを販売したりと資金稼ぎを模索しています。その一環としてユキバツバキをデザイン化したコサージュも販売しています。いずれも「やまかど・森の楽舎」に置いてありますのでご利用下さい。



来訪記念スタンプ



コサージュ